

## 会員からの手紙

野沢 俊哉

### ■造園植物材料データファイル2006を無料で配布

気候の歴史上、今日の春夏秋冬という気候サイクルは、およそ1万1千年前に形成されたと言われている。そしておよそ4千年前に大陸から伝わった稲作により、人々は何百万年と続いた狩猟採取のための移住生活から、土地を水田として利用し食を得る定住生活へと移り変わり今日までに至ってきた。温暖多雨な気候を持つ日本は、降った雨をすぐに海に流すのではなく、水田に一時ため、徐々に下流へ流すという水利用のシステムが定着してきた。そして陸域の動植物は、四季折々の気候と人間が作り出す水田の水辺環境をもとに、「食を得る」、「敵から身を守る」、そして「子孫を増やす」ことを満たすため、与えられた環境に、適応なり克服なり進化を重ね、今日の豊かな自然環境を形成してきた。

ところが近年、物質的に豊かになった現代社会では、全国的に豊かな水に恵まれた水田をつぶし、建物や道路などの都市開発が著しく行われ、降った雨は一挙に海へ流しきろうという発想で河川管理が行われている。そのため開発以前に生育していた動植物の生育域が寸断されたことが一因で、すでに絶滅した種や絶滅寸前の種が何年増えている。

人類は、進歩の著しい土木や建築などの技術導入と、エネルギー多消費型の生活により豊かさを求めた結果、長い時間をかけて形成された自然環境を人間本意に開発するに至ってきた。そしてさらに、継続して都市域の拡張や再開発事業が多く展開されている。これらの視点は、いずれも今生きている自分たちの世代に視点が置かれている場合が多い。このままでは、次世代の子供たちや野生動植物たちの生育環境をさらに悪化し、新生代（およそ6千500万年前）に発生した人類の継続すら危惧されることになる。

そこで、行政担当者や建築・土木技術者そして住民の力（ボトムアップ）で、個人庭園・公共施設廻り・街路樹・公園・河川敷（治水機能を踏ま

えた水害防備林や粗朶など自然材を導入した河川計画）・工場廻り・大規模小売店舗への今後の緑化義務の提案、などの緑地空間は、地域の気候風土になじんだ、都市開発以前の植物環境に応じた植栽計画にすることが求められる。そこで、街路樹にはどんな植物を植えればよいのか、庭の植栽には何が適しているのかが一目でわかる「造園植物材料データファイル2006」をまとめてみた。

このファイルのOSはWINDOWS XPEXCEL対応、Microsoft Excel上の植物のデータ集で、主に造園業で扱われている植物577種（樹木・草花・芝・笹・苔・羊歯・蕨性植物）の特性が入力されている。日本列島の自然植生分布に基づいて、都道府県別に生育可能植物が分類されている。これらの植物の特性は、樹高・日照条件・乾湿性・耐煙性・耐潮性・開花期・緑陰樹・屋上庭園・ピオトープ・津波防潮林・延焼防備林等の23項目の特性詳細が入力されている。

例えば、「5月に・白い花が咲く・高木」などと希望条件を指定すると、即座に適正植物が検索されてくる。後は、植物写真集やインターネットで植物の写真を見ることができる。このソフトで検索された植物を植えれば、従来の庭園や公園の魅力に加えて、野鳥や昆虫（ベネレータ）がやってきて、植物の種子や花粉を運んでくれ、思いがけない花が咲いたりすることがある。さらに行く末には、あなたの家の近隣に自然が戻ってきて自然環境豊かなまちとなり、それら一つひとつが結合されて、庭園のような地域が形成されればこの上ない幸せだ。次世代のために、水と緑が豊かな郷里を守り、受け継がせよう！！

ご希望の方は、FD1枚もしくはフラッシュメモリ1個と200円切手を同封して、会員番号明記の上、〒939-0744 富山県下新川郡朝日町平柳246 野沢俊哉（学習塾経営、東京農業大学造園学科卒）まで。